

13班：「IRをスタートしよう！」

○山本幸一（明治大学）、渡辺敦夫（茨城大学）、朝尾祐仁（京都大学）、高柳完至（岡山大学）、宇野朋幸（就実大学）、山崎史子（盛岡大学）、吉澤友加（二松學舎大學）、清水康子（川崎医科大学）、西澤陽介（株式会社マインドシェア）

1. 議論結果の概要

(1) メンバーの属性・経験と「個別課題」

①メンバーの属性

国立大学 3名 / 私立大学 5名 / 関係機関 1名

②メンバーの経験（挙手によるアンケート：複数回答可）

- ・ IR業務について

a：初心者（IRの立ち上げ期）	4名
b：簡易な統計レポート・グラフ作成等の経験あり	6名
c：調査設計、分析、レポート報告ができる	0名
- ・ 所属大学の方向

a：教学関係のIR（学生調査分析など）に重心	3名
b：評価対応のIR（教育の質保証など）に重心	2名
c：経営関係のIR（意思決定全般）に重心	7名

③個別課題

- ・ 中期目標などにおける指標を設定しているが、測定するためのデータ収集が困難。
- ・ 数値目標の達成度を測定しているが、大学の改善につながっている感覚がない。
- ・ 部門管理データを活用するIR活動で、各部門への働きかけをどうすればよいか。
- ・ 毎週、分析レポートを提出しており、すでに問題となるテーマが少なくなっている。
- ・ IR担当は兼務であり、補助金業務や社会連携業務などで、IRに時間がとりにくい。
- ・ ベンチマークのために他大学データの入手方法や活用方法を習得したい。
- ・ 大学全体の改革と個々の現場の改革を同時に進めるための成果指標データの開発
- ・ IR室の役割が不明確で、IR側からの発信を少しずつ試みている。
- ・ IRに必要なクロス集計やピボット等の基礎能力も個人のスキルになってしまい、人材育成をどのように進めるべきか、分からない。

(2) ポスター作成の作業の流れ

①個別課題の「傾聴」と「フィードバック」

メンバーは、IR初級者が多く、さらに小規模なIRオフィスに勤務し、具体的な課題を抱えている方が多かったことから、「個別課題」の共有に時間をとり、情報交換や相互にアドバイスする機会とした。「個別課題」の報告時には、報告者以外のメンバーが報告内容のキーワードを付箋に記し、報告後に、報告者へ付箋をフィードバックした。報告者には、個別課題を他者から客観的に整理してもらう機会とし、報告者以外のメンバーは、他大学の現況を「傾聴」することで、課題の共有と理解を深める機会とした。「個別課題」の共有においては、IR室の役割や権限の不明確さ等の「IRの理解」に関する事、データ収集など

の困難さからIR室が休眠してしまいそう等の「収集」に関する課題，データはあるが何を見せれば分からないといった「分析」に関すること，この他，成果指標の設定の仕方，国立大学における中期計画の運用に関すること等の問題が挙げられた。

②キーワードのグルーピング

次に，個別課題で作成されたキーワードの付箋を，全メンバーでグルーピングしたところ，IRの理解醸成，データの収集，データ分析がグループに共通する課題領域であることから，これらを中心課題としてポスターを作成することとした。

③班活動による原因探索と解決策の提案，全メンバーによる共有

ポスターの作成は，メンバーを「IRの理解班」「データ収集班」「データ分析版」の3班に分け，①問題点，②原因特定，③解決策を議論し，最後に各班からの報告を行いながら，全メンバーでポスターを完成させた。

(3) ポスターの説明

ポスターのテーマは「IRをスタートしよう！」である。このタイトルには，IR室を設置しただけでは，IRを効果的に活用した大学運営はできないという意味が込められている。メンバーの多くは，IR室に所属し，IR専任として活動しているが，それだけでは，効果的なIR機能の発揮が難しいというグループ共通の課題認識に基づいている。

第1に「IR業務に対する理解」についての問題があり，その原因に，IRの位置づけの不明確さや，IR導入のメリットの不明確さが挙げられた。解決策として，規程やガイドライン等を整備することで，決定権限や役割が整理されてくるのではないかと，等の提案があった。

第2に「データ収集」が難しいという問題において，解決策を検討したところ，部分最適のデータマネジメントを全体最適化するなどの大きな提案もあったが，この点でもデータ定義・データ収集のルールを学内で定めることが有効ではないかとの提案があった。

第3に「データ分析」が進まないという問題において，依頼部署とのコミュニケーションが難しいことや，分析方法が未確立であるとの原因が示され，他大学との事例交換も有効ではないかとの提案があった。

以上のように，IR室を設立した初期段階においては，IR業務そもそものノウハウに乏しいことから，IRをスタートできない現況となっており，大学間におけるノウハウの蓄積・共有が問題解決の方向性として示された。

2. グループ討論を通して感じた評価やIRを改善に活かすためのコツ、感想等

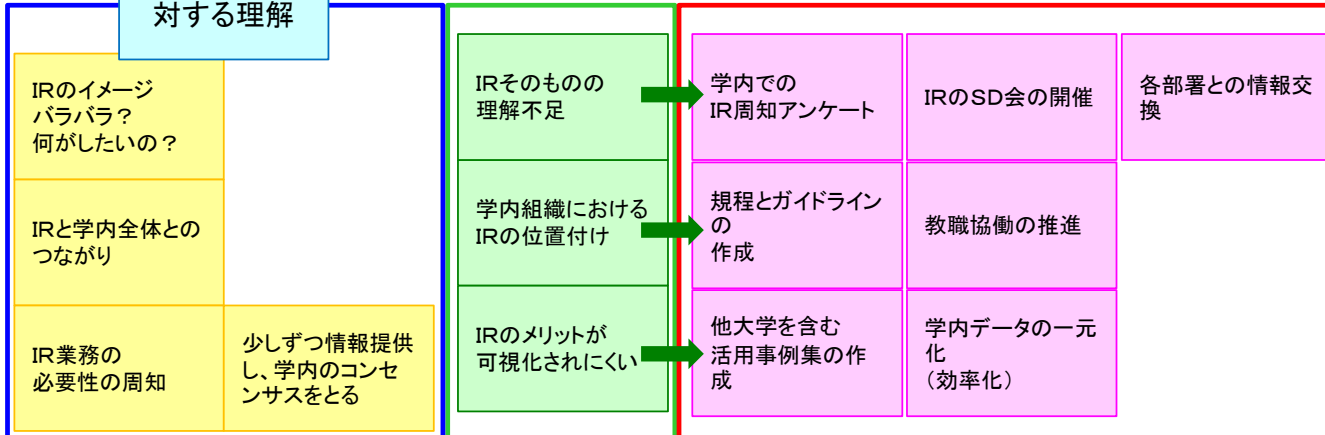
ルールづくりによるIRの権限や役割の明確化は，学内でIRについて議論を起こすことになる。一方で，IRのメリットが可視化できなければ，学内での議論は観念的となり，IRの推進は困難だ。IRは「データを基に」「分析レポート」を提出してこそ仕事をしたことになるので，観念的な議論に終止符を打ち，IRをスタートしたい。まず他大学からのノウハウの移入でもよいので，説得力のあるデータを生み出し，部局との信頼関係を醸成することが必要だ。

また，スタートしたIR部門を安定した組織として発展させるためには，担当者の力量形成の方策を，今後の共通課題として意識しておく必要がある。

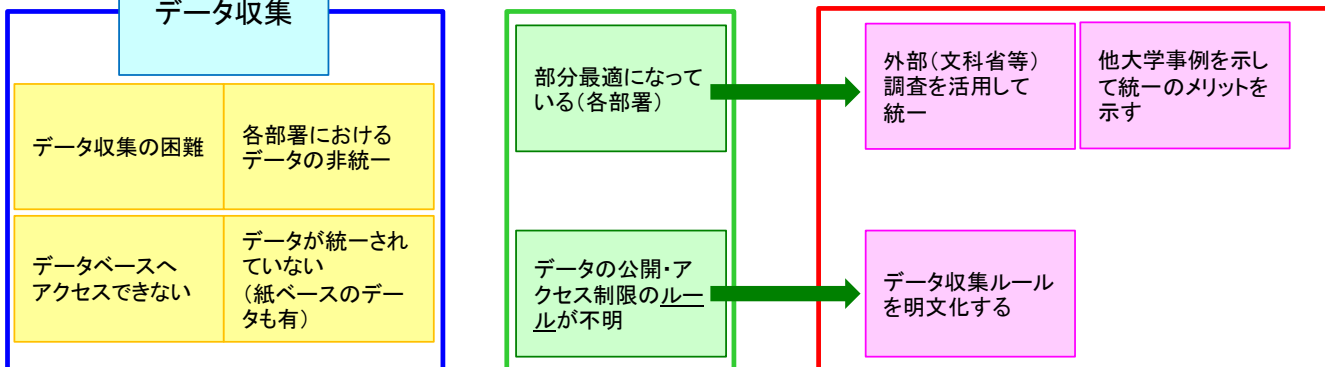
13班 IRをスタートしよう！

問題 → **原因** → **解決策！**

IR業務に対する理解



データ収集



データ分析

